

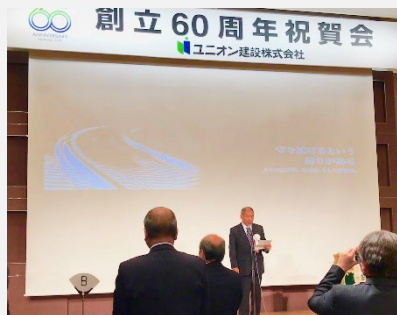
# 不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.32 (2018.11.27)

平成30年度スローガン  
みんなで目指す顧客感動経営  
140年企業としての誇り  
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄



10月31日、池袋メトロポリタンホテルでユニオン建設株式会社創立60周年記念祝賀会が開催され出席して参りました。福田社長、その他ご来賓の皆様のご挨拶並びに「60年史」を参考にし、同社の歴史を紹介したいと思います。

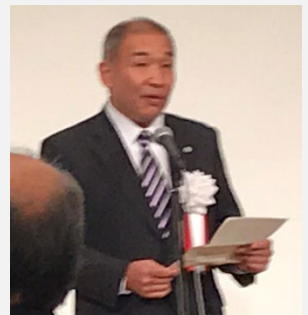
ユニオン建設様の歴史は昭和33年、「鉄道工事の鬼」と言われた飯田清太氏の尽力により設立された役員4名・社員11名のユニオン土木に始まります。飯田氏は大正6年に鉄道工業合資会社に入社、九州や満州でその名にふさわしく数多くの鉄道建設に携わりました。その後飯田建設株式

会社を創業し、ユニオン土木の設立へとつながりました。昭和30年代後半の東海道新幹線の工事においては、実績が無かったため鉄建建設などの下請けをして実績をつくったようです。

昭和40年代は大型土木工事で赤字を出すなどして財務状況が悪化、炭鉱の仕事をしていいた関係で太平洋炭砒株式会社の資本系列会社となりました。しかしその直後の昭和42年、炭砒火災で得意先が倒産、最大の危機を迎えましたが長期の借入れをすることで乗り切ったということです。しかし昭和49年には借金が売上の半分近くにまで膨らみ倒産寸前まで追い込まれました。そこで救いの手を差し伸べてくれたのが、当時西武鉄道株式会社副社長でその後第9代国鉄総裁となる仁杉巖氏で、昭和50年には西武建設株式会社の資本系列となりました。西武グループの一員になったことを機に「月次決算」制度を導入し、より厳密な工事原価管理が実施されるようになったことで、飛躍的に完成工事高・経常利益が伸びたようです。

昭和50年代は東北新幹線の工事等で順調に業容を拡大、60年代には津軽海峡海底トンネル工事にも携わるなど東北方面に本格的に進出しました。しかし国鉄民営化による軌道工事の落ち込みで再び業績が悪化、一般土木工事に参入したものの利益を捻出できずに営業赤字に陥る状況にありました。その後昭和63年に社名をユニオン建設株式会社に変更、平成6年にJR東日本グループに参入しその後100%子会社になりました。

「企業に歴史あり」という言葉がありますが、現在の当社の大事なお客様であるユニオン建設様、今でこそ400億を超える大企業に成長されていますが、幾多の試練を乗り越えて来られたのだなと感慨深く拝聴しておりました。当社も9年後に150周年を迎えることとなります。厳しい時代もありましたが先人たちの努力に報いるためにも日々毎日を大切に、地域社会に是非とも必要とされる企業として次の世代へと繋げていくことが我々の使命であると確信いたしました。



## 湯沢商工会議所 30周年

11月16日、湯沢商工会議所創立30周年の記念式典・記念講演・祝賀



会が行われ、ハイス&C非常勤取締役の赤井厚雄先生によるキャッシュレスなど「経済のデジタル化」についての講演がありました。現金が必要ない時代がもうすぐそこです。

## 仙北市イクボスセミナー



11月20日仙北市イクボスセミナーの講師としてお招きいただきました。有給休暇の取得推進やワークライフバランスへの取組、禁煙手当の創設や就業規則の改定など健康経営について話をさせて頂きました。

## 宇宙エレベーターロボット協議会

11月23日、宇宙エレベーターロボット協議会第6回東北大会が開催されました。小中高19チームがそれぞれ工夫を凝らしたエレベーターロボットで真剣に取り組んでいます。

